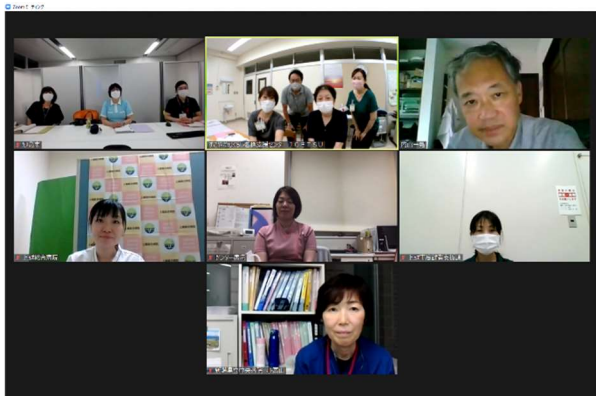


# 令和3年度上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会

## 第1回入退院時連携推進部会を開催しました



- 8月5日（木）オンライン会議にて、第1回入退院時連携推進部会を開催しました。参加者は部会メンバー7人、事務局5人でした。
- 昨年度の部会の振り返りと7月2日に行われた協議会の内容について事務局から報告を行い、その後コロナ禍における入退院時の連携や地域連携連絡票の活用状況等について、それぞれの立場から意見交換を行いました。

### 【コロナ禍における入退院連携について】

- ・ 面会制限のため本人の様子を直接確認することができず、退院直後にケアプランの見直しを行うことがある。家族も院内に入れられないため状態を理解しにくく、もどかしさを感じている。
- ・ 病院と在宅側では電話や書面（地域連携連絡票、Fax）で連絡することが多い。リモートでカンファレンスや利用者さんの状態を見ることができると嬉しい。
- ・ 今後も今までのように院内で直接面談することは難しく、オンラインなどを含めたICTの活用が必要。

### 【地域連携連絡票について】

- 在宅の立場
  - ・ 入院時には病院連携室やMCネット等を活用して提出している。
  - ・ 令和2年度に高田地区の地域包括支援センターが実施したケアマネ研修会で、病棟看護師と意見交換ができ、地域連携連絡票の意義や想いを共有できたと感じている。より多くの病院の方に研修に参加して欲しい。
  - ・ コロナ禍における連携について、入退院時の連携フロー等注釈が必要と感じる。
- 医療の立場
  - ・ かかりつけ医としては、患者に何かあった時だけではなく、普段の様子を教えてもらえると助かる。
  - ・ 転院先の病院から、事前共有のため送ってほしいと依頼されたこともある。
  - ・ 電子カルテに取り込む等工夫しているが、病棟内での普及や活用には差がある。昨年度の上記研修会に参加した病棟では、意識が上がった。地域連携連絡票に関する学びの場が必要と感じる。

### 【まとめ】

- ・ よりスムーズな連携を行うために、連携フロー図の再確認が必要。
- ・ 地域連携連絡票に込められた想いを共有し活用を促進するためにも、普及啓発する機会を増やすことが大切。オンラインや職場単位等現時点でできる研修会について検討が必要。

### 【次回について】

- ・ 連携フロー図の再確認と地域連携連絡票の研修会について検討します。